就活のコツ伝授

学生就職アドバイザー

内定を得た4年次生が、就職活動開始を控えた後輩にアドバイスする「学生就職アドバイザー」が11月12日から、神田・生田両キャンパスで始まった。

アドバイザーは「好きなことや、やりたいことなど、自分の感覚を信じて就職活動して」と激励する。

アドバイザーは月～金曜日、各キャンパス1日2人態勢で実施。「なにを相談したらいいか分からない」「就職課に入りづらい」といった就活の入り口から、面接の受け方、業界研究など具体的な方法まで、経験に照らして助言する。

自身も3年次のときにアドバイスを受けたという鈴木優太郎さん（法）は「就職アドバイザーを利用したことで、やるべきことが分かった。後輩には、自分なりのエンジンのかけ方を知るのが一番だと伝えたい」と話す。

8月まで就職活動を続けたという深見真子さん（法）は「悩んだり落ち込んだりすることもあるけれど、自分が納得するまで続けること。時間がかかっても、自分に合った仕事を見つけることはできる」と振り返る。

酒匂川和さん（人間科学）は「就職活動といっても何から手をつけたらいいか分からない。学内企業説明会でたくさんの企業の話を聞くうちに、直感的に向いているかどうかが分かってきた。自分の感覚を信じて、就職活動を進めてみたら」とアドバイスする。

両キャンパスとも予約不要。日時や担当は別表参照。

学生就職アドバイザー

【神田キャンパス】

月	人間科	酒匂川　和	食品卸売
	法	中村　敦哉	玩具・娯楽用品卸売
火	法	野村　南帆	損害保険
	文	上野　雄太	筆記具メーカー
水	法	深見　真子	プラスチックフィルム加工
	法	野口　愛	眼鏡小売
木	法	池　浩澄	都市銀行
	法	佐川のぞみ	国家公務員
金	法	鈴木優太郎	電気機械器具卸売
	法	下境　裕貴	地方公務員【11、12月担当】
	文	飛田　翼	ソフトウェア開発【2、3月担当】

【生田キャンパス】

	学部	氏名	内定先業種
月	経営	山家　智貴	人材サービス
	経営	平沼　正汰	人材サービス
火	経営	山田　真己	電気機械メーカー
	人間科	佐藤　浩	鉄道
水	人間科	山本　朋佳	地方公務員
	文	齋藤　志織	航空
木	経済	中原　茉優	電子部品メーカー
	経済	原　嵩拓	地方公務員
金	人間科	西田　千夏	農業協同組合
	経済	有坂　哲	電子部品メーカー

※生田は担当曜日変更の場合あり

◆神田就職課
11/12(月)～12/14(金)
14時50分～16時20分
2/4(月)～3/8(金)
15時～17時
◆生田就職課
11/12(月)～12/14(金)
14時～16時30分

３年次生の相談に応じる学生就職アドバイザー

ふるさと就職マルシェ

鳳祭・ホームカミングデー期間中の11月3日、U・I・Jターン支援イベント「ふるさと就職マルシェ」が生田キャンパスであった。本学と就職支援協定を結ぶ地方自治体など2市20県がブースを設け、学生の相談に応じた。

特産品をPRしたり販売した自治体もあり、学生や卒業生のほか、一般来場者も多く訪れ、盛況だった。

就職課から

〈4年次生へ〉就職活動を継続している皆さん、状況はいかがでしょうか。

就職課では企業へ提出する履歴書やエントリーシートの添削、模擬面接を受けることもできます。一緒にこれまでの就職活動の振り返りをしてみませんか。不安なことは自分の中にため込まず相談して解消しましょう。

なお、11月22日(木)、12月14日（金）に学内企業説明会inサテライトを開催します。

〈3年次生へ〉今月から「Howto企業研究」が始まります。企業のビジネスモデルから業界全体の動向を知ったり、企業の探し方を学んだりできるプログラムです。今、皆さんが知っている業界・企業はほんの一握りかもしれません。自分に合った企業・職種を見つけるためにも多くの業界を知りましょう。

また、業界研究とともに進めてほしいのが自己分析です。時にはスマートフォンの電源を切り、自分と向き合う時間を作ってはいかがでしょうか。悩んで進まない際には、ぜひ就職課に相談に来てください。

ハラスメントになる前に

Stop Campus Harassment!
ハラスメントのないキャンパスへ

近ごろ、自然災害などによる電車の遅延・運休が珍しくなくなりました。混雑したホームでため息や怒声が発せられた、などの報道を目にします。暴力的な行為が付随することもあるようで、こうしたサービス業で働く人に対する迷惑行為も、お客様は神様、と思いこむパワーバランスから生じるハラスメント行為ではないでしょうか。数年前に、希望する鉄道会社に就職した学生がいたので、彼がそんな目にあわないことを願うばかりです。

仕事や研究のため訪れるドイツでも、運休や遅延がよくあります。2015年の夏期留学（現在は春期に実施）の引率時に、大学本部の国際交流の方と打ち合わせをするため、電車で移動する必要がありました。ところが、1時間に1本しかない電車が直前に「運休」となり、相手方を1時間待たせることとなり、心苦しい思いをしました。

今年の夏も、乗車したICE（高速列車）が2時間遅れた末に、運転士の勤務時間の超過のため、全員下車させられ、結局のところ3時間遅れで目的地に着きました。

どちらの日も、怒声は聞かれず、キレた乗客も見当たりませんでした。ICEの車内では、たまたま乗り合わせた（見知らぬ同士の）乗客の間で、会話が始まりました。これはまだ良い方だ、私はもっとひどい目にあった、というエピソードが次々に披露されたのです。

ドイツでは、遅延に慣れてしまっているということもあるでしょうが、周りの人と会話をし、出来事を相対化することでストレスを幾分やわらげているのかなと感じました。ハラスメント行為に至る前に、うまくストレスを解消したいものです。

（キャンパス・ハラスメント対策室員・西口拓子）

UIターン知事メッセージ

大阪府知事　松井一郎

住みやすさ世界3位 大阪で働きませんか

大阪府では、日本の成長をけん引する東西二極の一極（副首都）をめざし、世界と日本各地を結ぶ玄関口としての「中継都市」、新たな価値を生み出す「価値創造（ハイエンド）都市」という都市像を目標に掲げています。

大阪は、英誌「エコノミスト」の調査部門が8月に発表した「2018年世界で最も住みやすい都市」ランキングで、東京、ニューヨーク、ロンドンを抜いて世界第3位となるなど居住環境が良い都市です。都市としては家賃や物価が比較的安く、都市部や郊外部、山間部など特色のある地域でコンパクトに構成されているため、ライフスタイルに合ったエリアで快適に暮らすことができます。

また、2009年から2016年にかけての旅行客増加率が世界第1位になるなど、来阪外国人旅行者が年々増加しており、観光・インバウンド業界の成長も見込まれます。さらに、国内外で高いシェアを占め、「つくれないものはない」といわれるほど、技術力のあるものづくり企業が集積しています。このように、大阪ではさまざまな強みをもつ産業が集積しており、自分に合った職業で活躍できます。

加えて、大阪は開業率が高く、「うめきた」エリアを中心にさらに起業しやすい環境も急速に整いつつあります。ライフサイエンス分野や環境・新エネルギー分野におけるイノベーションの創出や、新たな産業の創出につながる独自性の高い研究・開発を進められる環境があるため、新しいことにチャレンジもできます。

このように「住みやすさ」「働きやすさ」「チャレンジのしやすさ」がそろった大阪で活躍していただこうと、大阪へのUIJターン就職を希望する方に対し、就職相談や企業紹介を行っています。

また、「おおさかUIJターンサポート制度」にて、民間企業と協力し、就職活動や移住の際の経済的負担を軽減するための特典を提供していますので、ぜひご活用ください。

専修大学の皆さんが自分らしさを活かし、大阪で活躍される日を心より楽しみにしています。

【おおさかＵＩＪターン促進事業】http://www.kigyo-miryoku.pref.osaka.lg.jp/
【ＯＳＡＫＡしごとフィールド】http://shigotofield.jp/

劉　相運さん（経済３）

インターンシップ参加

前向きに挑戦、道開く

「好奇心を持って、常に新しいことを学んでいきたい」――。

劉相運さん（経済3）＝写真＝は中国広州市出身の留学生で、車椅子を利用しながら生田キャンパスで学んでいる。ゼミ活動や企業でのインターンシップなど、さまざまなことに挑戦し、自らの道を開いている。

事故で9歳の頃から車椅子を利用している劉さん。日本の大学で学びたいと2014年に来日し、日本語学校を経て専大に入学した。

専大では永江雅和ゼミに所属。「地域社会経済の発展に関する歴史的研究」をテーマに研究に励み、10月には大学間ディベート大会にも出場した。

「専大での学びを生かし日本の企業に就職したい」と考え、今夏には、キャリアデザインセンターが実施する就業体験型インターンシップに参加。5日間、野村証券で金融・証券業界について理解を深めた。

インターンシップでは市場に関する講義や、東京証券取引所などの見学が行われ、他大学の学生とのグループワークにも取り組んだ。

「見学先への移動にはタクシーを利用するなど、多大な配慮をしていただいた。充実したインターンシップとなった」と振り返った。

「野村証券の方からの『物事をマイナスではなく、プラスに捉えよう』という言葉が印象に残っている。自分が車椅子を利用していることは、相手に自分を知ってもらい、覚えてもらうきっかけになるとも話してくれた」

時間の使い方、コミュニケーションの大切さなどビジネスマンとしての心構えも教わった。

「車椅子ということで、就職活動の企業選びで遠慮する気持ちがあった」と言うが、今回のインターンシップでの出会いや体験で気持ちが変わった。

「前向きに、自分にとってやりがいのある企業を探したいと考えている。中国語と日本語ができるのが私の強みの一つだが、さらにこれからスペイン語を習得し、語学力という武器を磨いていきたい」と新たな目標を掲げる。